

地理B

第1問 問5 「5」

ステップをふんで考える資料読解問題で、各学力層で差がついた

問5 次の図6は、1980年～2020年に起こった洪水と地震の被害上位8か国について示したものであり、図6中のタとチは洪水または地震のいずれか、PとQは死者数または被害額のいずれかである。洪水の被害額に該当するものを、図6中の①～④のうちから一つ選べ。

		洪水または地震			
		タ		チ	
死者数または被害額	P	順位	国名	順位	国名
		1	インド	1	ハイチ
		2	中国	2	インドネシア
		3	ベネズエラ	3	中国
	4	バングラデシュ	4	パキスタン	
	5	パキスタン	5	イラン	
	6	ネパール	6	インド	
	7	インドネシア	7	スリランカ	
	8	ベトナム	8	ロシア	
		①	②		
Q	順位	国名	順位	国名	
	1	中国	1	日本	
	2	アメリカ合衆国	2	中国	
	3	インド	3	イタリア	
	4	タイ	4	アメリカ合衆国	
	5	日本	5	チリ	
	6	ドイツ	6	トルコ	
	7	イタリア	7	ロシア	
8	朝鮮民主主義人民共和国	8	ニュージーランド		
		③	④		

統計の順位は1980年～2020年の累計。
EM - DATにより作成。

第1問 問5 「5」

正解率	67.2%
SS75～	96.8%
SS70～75	92.7%
SS65～70	89.9%
SS60～65	85.5%
SS55～60	79.3%
SS50～55	73.6%
SS45～50	65.9%
～SS45	48.0%

2022年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試

「地理B」

受験者数: 84,497人
平均点: 46.5点
標準偏差: 14.4

地理 B

第1問 問5 「5」

ステップをふんで考える資料読解問題で、各学力層で差がついた

結果分析

共通テストの資料読解問題で特徴的であったのは、「複数の資料を組み合わせで判断する」出題、「資料の凡例などの指標と、国名を組み合わせで判断する」出題です。資料中の国名や品目名をストレートに問う形式はほとんど出題されなくなりました。

本問では、タテとヨコの指標を判断するために、タテ・ヨコどちらのグループが特徴的かを考えます。ヨコに見た場合、Qは先進国が含まれていることに着目して、Qが「被害額」と判断します。次にタテに見て、タとチの国々を比較して、チにはプレートの狭まる境界に位置する国が多いことから、チが「地震」と考えます。

このように、資料から「着眼点」を見つけ出し、ステップをふんで考える力が求められており、この力が身につけているかどうかで、正解率に差がつかしました。

指導のご提案

教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式への対策を進められている時期だと思えます。新しい設問形式への対策に時間がかかり、基礎知識の定着にかけられる時間が十分に取れていないということも伺っています。問題演習の解説では「解き方・考え方」が中心となるかと思えますが、その際には、背景となる知識（事実関係）を明確にし、その知識からどのように正解を導くのかという思考のつながりが大切です。

また、共通テストでは、細かい知識ではなく、世界を大観して傾向をとらえることが重視されています。自然環境と関連させて、産業や人口などの系統的な内容を確認するなど、断片的な知識をつなげる練習を重ねることが大切です。